

台湾産養殖ハタ（交配種）の輸入について

令和 5 年 8 月
医薬・生活衛生局
食品監視安全課

1 経緯

- (1) シガトキシン及びその類縁化合物（以下「シガテラ毒」）を有すると考えられる魚の輸入に当たっては、「輸入時のシガテラ毒魚の取扱いについて」（平成 13 年 1 月 22 日付け事務連絡別添）（参考 3-1）において食品衛生第 6 条第 2 号（有毒・有害物質を含む食品の販売等の禁止）（参考 3-2）に該当する魚種等を示し、魚種鑑別によりその該非を判断しているところ。
- (2) 今般、台湾から、事務連絡別添においてシガテラ毒魚として示しているアカマダラハタをタマカイ（いずれもハタ科の魚）と交配して得られた魚（以下「交配種」）の我が国への輸出が要望されており、そのシガテラ毒のリスクについて検討を行うこととした。

2 交配種の概要

- (1) 雌のアカマダラハタと雄のタマカイ（いずれも養殖）を人工受精で交配して得た稚魚を陸上養殖にて幼魚まで生育し、陸上又は海上養殖にて成魚に育成。
- (2) 交配種は特有の体色と縞模様を有しており、アカマダラハタをはじめ他のハタ科の魚と視覚的に識別が可能（参考 3-3）。
- (3) 陸上養殖は、台湾沿岸の海水を砂層ろ過した後、沈殿や生物ろ過により浄化して使用。
- (4) 餌は主に人工配合飼料を使用しているほか、成魚の養殖において一部生き餌（シガテラ毒魚分布海域外のサバ）を使用。
- (5) 交配種はシガテラ毒検査（マウス毒性試験及び ELISA）陰性。年間約 8,000 トンが生産され、ほぼ中国や香港等に輸出。これまでシガテラ中毒の報告なし。

3 交配種のシガテラリスク

令和 4 年度厚生労働科学研究費補助金・食品の安全確保推進研究事業「自然毒等のリスク管理のための研究」において、主に次の点について調査・検討を行い、少なくとも陸上養殖される交配種については、管理が適切に行われる限りシガテラ毒のリスクは低いと考えられることが報告された（参考 3-4）。

- 毒化した親魚から生まれた稚魚が毒化する可能性
- シガテラ毒魚の交雑種が毒化する可能性
- 毒化要因を排除した環境で養殖された交配種が毒化する可能性

4 今後の対応

厚生労働科学研究の結果を踏まえ、今後、現地調査により、餌や養殖水への毒化原因の混入防止対策、天然魚等との分別流通管理及びこれらに対する当局の監督管理体制等を確認した上で、交配種の輸入可否を判断する。